

6回
シリーズ

公民館等職員研修

～「種」から住民とともに育てる事業を通した人づくり～



R6. 5. 13(月):いわみーる

第1回 「種」から住民とともに育てる事業を通した人づくり (オンライン開催)

1 趣旨説明「事業を通した人づくり」とは

はじめに… しまねの社会教育で大切にしたいこと

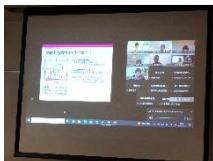
- 「未来に対して主体性をもって生きる人」を育むプロセス
- 学びつなげる場の形成
- 社会教育流儀「集って 楽しんで 学んで 動いて 変えていく」
- めざす姿は「未来に対して主体性をもって生きる人づくり」

この研修のめざすところ

- ①「自分の地域のために自分たちで行動しよう」という思いの人を増やしていく
- ②企画・立案力、プレゼン力、コミュニケーション力をさらに高める

公民館等実態調査より

- 把握している地域課題…「次世代育成」
- 施設に求められている役割…「地域の指導者・リーダー養成」 など
- だれ(の主体性)を育てるの?
- 事業の連携先や地域住民 など



(趣旨説明時)

どうやって育てるの?



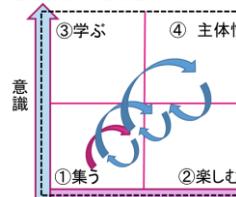
事業イメージ

事業の中で意図的なかかわりを行う



意図的なかかわりとは?

公民館等職員と仲間の関係



- ◎当センターの仮説
 - ・「意識と親密度を高めれば、主体性が高まるだろう」
- ◎この研修のポイント
 - ・地域住民をどう事業に巻き込むか
 - ・地域住民にどう楽しんでもらい、どのように学んでもらうことで、主体性を高めていけるか



(オンライン会場の様子)

2 事例発表

この夏『君が』『地域が』…変わる ～3年目の今～

浜田市杵束まちづくりセンター 主事 河平 颯希 氏

コロナ感染症の影響や、気になる地域の実情。そんな時友人に、「手持ち花火大会」をしたいという思いを話したところ、背中を押され花火大会の事業が動き始めた。

まずは、実行委員会を立ち上げるために、先輩、後輩、友人など自分が話しやすい人に、自分の思いを**とにかく訴えた**。あたって砕ける精神でいった結果、行政とまちセン職員のほかに6名の仲間が加わった。仲間には、自分たちが楽しんでほしい、積極的に動いてほしい、新たなつながりができれば…など期待もあったが、**とにかく任せる**ことにした。

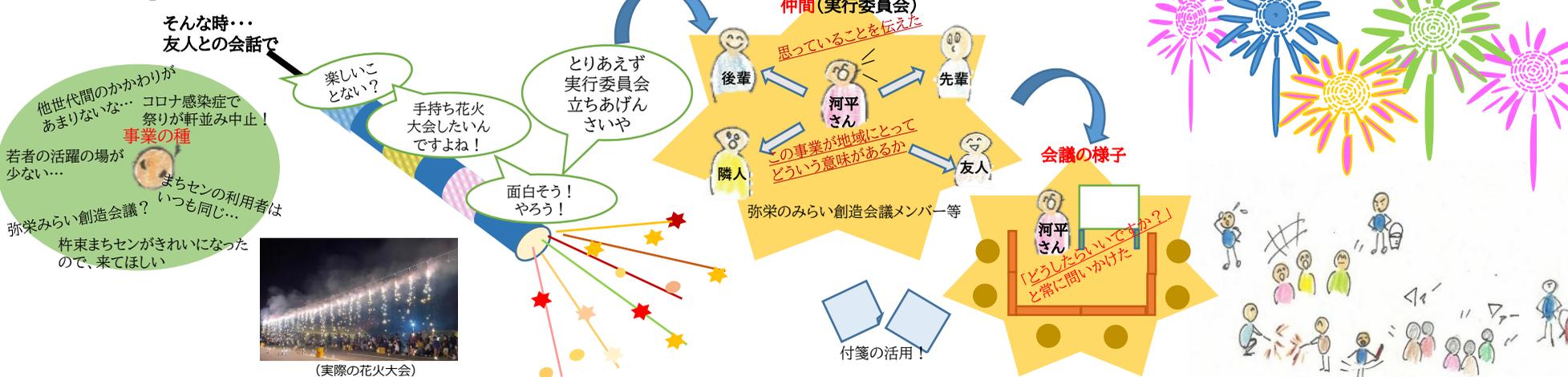
会議は、仲間の意見を引き出すために、机の配置を工夫したり、遅れてくる人に話し合いの様子が見えるようにホワイトボードに記録を残したりした。まずは仲間の意見を聞き、その後まちセンの思いを伝えることを心がけた。いろいろな失敗もあったが、最大の危機は、コロナ感染症の拡大でやむなく1ヶ月の延期をしたことだった。仲間の誰一人として中止をする気持ちはなく、逆にモチベーションが一番下がっていたのは自分だと気づかされた。

事前準備は、昼間働いている仲間が多いため、地域の高齢者が手伝ってくれた。そして、当日。当初70名ぐらいの参加を予想していたが350名の来場があり、そこには、仲間の自主的に動く姿があった。事後のアンケートからも、「楽しんで活動できた」「協力できた」「若い人が率先して企画実行するのは地域の元気につながる」などの声が聞かれた。

このことから、お願いすること、任せることの大切さ、仲間自身が楽しむことで達成感が得られ自信につながったこと、年代などばらばらだったからこそ生まれる意見があること、**ひとづくりはまちづくりにつながる一歩**であることに気づいた。事業後、仲間には活躍の場がひろがり、つながりも生まれていった。

2年目は、仲間一人ひとりに力がつき新たなアイデアが生まれ、地域の反応は不安から期待へと変わっていった。花火大会に参加したいという団体も現れた。そして3年目の今年。新たな仲間を呼び入れたり、自ら志願して実行委員会に入ってくれる人も現れ、すでに1回目の会議も開催したところだ。

まちづくりのための課題の発見から解決のサイクルに、多様な人々を巻き込みその過程の中で人材を育成することが必要だと思う。今までは一人ひとりを高めることを目的としていたが、これからは、個々を高めつつ、まちも高める。ひとづくりとまちづくりを共に進めていく。ひとづくりとまちづくりに大切なことは、仲間をいかに楽しませ今後もかかわってくれるようにできるかだと思ふ。巻き込むときから、なぜこの事業が必要なのか、何が地域にとってメリットか、一緒に活動するとどのようなことができるのか等を、仲間を見極めながら声をかけていくことが必要だ。その過程の中で、仲間自身が「気づき」を得ながら主体的にかかわるよう、意図的な仕掛けも大切になると思う。ひとづくりもまちづくりも共にWIN-WINに。人口減少や高齢化が進んでいる弥栄にも、活気ある未来が見えてくるのではないかと。(発表概要)



3 感想・質問コーナー

<良いところ・まねしたいところ>

- ・スライドが見やすい
- ・仲間に話しやすい人を選んでいる
- ・積極的に動いてくれる声かけ
- ・延期の決断すごい(思いを感じ取れた)
- ・行動力(考えるが実際に行動に移すのは難しい)
- ・自分は一人で仕事をやってしまいがちだが、みんなに仕事をふることが大事
- ・20・30代に声をかけづらく、最初から無理だと思っていた
- ・あたって砕ける精神
- ・仲間がだんだん仲良くなっていき、パワー・団結力がみなぎっていた
- ・スライドのキャッチコピー「私は見た！」

(センター担当から) 河平さんの事業の良さを3つ

- 【巻き込み方の工夫】
 - ・身近な人を中心に声をかけていった。
 - ・ただ「やりたい」「やろうよ」ではなく、「若い人も活躍できる機会を創りたい」「他の世代とかかわり、楽しむ機会を創りたい」というねらいや「それが杵束の人づくり、まちづくりにつながる」という想いや願いを訴えた。
- 【主体性を高める】
 - ・信じて任せる・頼る…ただ任せるのではなく、それぞれの得意なことや好きを知って信じて任せる。

<質問>

- Q. 自分の地域では、動いてくれる人は役をいっぱい持っているが、今回の実行委員はどんな状況か?
 - A. ほとんどがどこにも所属していない。
- Q. 話し合いがもたれり白熱しあらめ方向にいかなかったか?
 - A. いろいろな意見が出て大変だったがそれはなかった。
- Q. 夏祭り以外に「やってみよう」は出たか?
 - A. 街灯が少ないので竹灯籠を作ろうか。

- ・楽しそうから楽しいに変わり、やって良かった、役に立ったに。
- ③【河平さんの人柄や思い】
 - ・自分一人ではできないことは素直にお願いする、頼る、任せる。
 - ・年代関係なく一人ひとりを尊重し、対等な関係を築こうとする。
 - ・前向きで朗らかな人柄
 - …当たって砕ける精神だ!



(事例発表時)



(発表を終えて…)

4 東西受講者アンケートから (一部抜粋)

- ・このような研修に参加することがなかったので、積極的に学んでいきたい。約一年をかけての長期の研修なので、いろいろと吸収をしていきたい。
- ・とても分かりやすい研修だった。
- ・少数なので少数なりに深い学習ができれば良いなと思った。発表するという事からこれまで逃げてきたので、少しでも苦手を克服できたらいいなと思った。

- ・事例発表がとても参考になった。人を巻き込むことが苦手なので 発表者のように人を巻き込む力や楽しいと思わせる力をつけたい。事業をどうしたら楽しんで考えられるかはまだ想像つきませんが4か月の期間の中でワクワクできるような企画を考えたい。
- ・自分に当てはめた構想がまだできていないので具体的な取り組みを考えながら、皆さんのサポートを受けながら完成させていきたい。